花供書

此冊農稿年ものかゝ者と我く辞世
面き翁も志ゝ称ハ又なみ者へ記ものゝ
ゝ云ハ咲ゝ有ゝ者ゝ
嘲ハ長閑ゝ現散花乃表
ハ乃表雅の言ハとゝ如
執年卧枕床ゝ寒ゝ
ハむゝ侍者ゝ笑ハ遥ゝ

[illegible]と五條の橋一ことの
芭蕉も[illegible]立花懷[illegible]を稱ハ[illegible]
[illegible]の雪る立の德と世集
の[illegible]利小[illegible]
[illegible]て人[illegible]

福原　菊卜

文久二年壬戌三月十二日

花供養會

[illegible]日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

石見　鶴巢

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

支藩第七代の藩主を継ぐ　桃太
[illegible]　何義
元年の頃第九代の藩主となる　文英
罷免されて隠居の身となる　升意
[illegible]　荷拿
交易[illegible]　喬石
第[illegible]　松野
汐島[illegible]花の出[illegible]　為[illegible]
月の[illegible]　鳥岬
[illegible]　[illegible]角
[illegible]業[illegible]角力を[illegible]　古汁[illegible]

[illegible]を取り初年[illegible]池
[illegible]橋の[illegible]　清[illegible]
罠を[illegible]　[illegible]　春海
[illegible]の[illegible]獲[illegible]の荒[illegible]　[illegible]山
[illegible]日土乃[illegible]　上毛　巨笠
[illegible]風[illegible]　毛居
[illegible]仕[illegible]茶[illegible]　里石
[illegible]　[illegible]子
[illegible]を所[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]山
[illegible]日記[illegible]　[illegible]湖

殿よりたまはる手ぶくろ　花橘
味はひも橘のかをりにまがふ　夢丈
大殿屋の留守ゆゑ小侍らの喰物　荒芽
勿体ないことも第一難千場　比佐
あるかのもとをさまりたる世明よ　原水
宗家ゆかりの寺　橘乃
ゆくゆく網戸にかかる遠　喜戒
ふる雅楽寺の所ゆかり　菱丈
庁鳴ふ寺ゝ案ゝ　比宮女
枝の長ぬ玉を見高ゝ　栄女
越ゝ屋も葉ゝ領を与ゆ　白鳥

北の東ふ海もゝ月の築山　清紀女
天ゝ反掘もゝ月ゝ反結　百垂
夫ふ指打ゝ明後日の月　赤甫
夢ゝ見ゝ寺味の外ゝ屋子　橘隈
沼白ゝ屋ゝ反ゝ　袁翠
林檎へも巻ゝ氣ゝ明ゝ　将芝
原ゝ反ゝ夫ゝ反ゝ　大宝
入相ふ反ゝ紀の赤ゝ　橘逸
庁ゝ寺ゝ紀乃ゝ　袁
大天十歳西宮殿　執筆素生

江戸

うらなつかしき春日の霞さすかの山　秀山
袋しく紅葉いとあれたる地　善阿
夏なれや森の梢の花乃月　不染
立ぬ山児なるもの春の夏の名残　四楽
二もとの杉ゆくやさとの水　岩山
掛菜乃春もたのもの孫まつ系　丁明
伸さるる枝や仏牡丹の子ども　苔唐
紙ぶくれ門を出る彩物　象将
青あるし此や魚まつ鮫の細　水壷

年ふるひやうの日のさる猿山　乙瓜子
鶯乃ふるく鶯の年あるまつ系　又楽女
さくらの春のもの芝柚　又紅
甚敢よ芝袋乾しる物えるる　法石
樹乃枝ふ蕚ふるる紅ゆるれる　一糸女
茶の色や日の年ふるる咲　二木女

酔来而眠醒来而飲
破硯相継如環垂楊

涼しさや加茂乃河原の夕月夜　秀堂
東ぶくろしる流生ふる夕時　年玄
わられるも捨人ふ茶ふ芝ふ捨　嘉石

[illegible]

芳州　きく雄　明水　花侍　甘棠　可仁　丁芳

[illegible]

一かくれあるあとを慕て経蔓哉　兼也

板下はそれあるとき茶の器哉　宗曉

日くらしやちるさくら寺乃くるま哉　真湖

ちかく経吹てその後や風の音　彩甫

来るい彩陳やをそ日のかたゑ　丘休

咲くらく藁まくるに桂の糸　弘湖

笑を栽人狂を紀屋の菜香哉　牡丹

狂名門よ遠遠く

手毒を雪くそうり夕納涼　木裁

田いるかまちかくまちもとの門　永機

庭の竹陳の白とくるとの菜　[illegible]

大名乃芳[illegible]中屋藤[illegible]　見邦

武義

義のくるとかのひくるも特事　天由

餅くふて蝶にならせたる田打哉　其彭

花へある声や雨来る初かはづ　其孝

山住やとまりかへるかれ猫　素枝女

擣も捧も入りて自来て苗舟　文桂

下総

初花やかざしし扇もたゆみし　森車

上野

蝶々も空に声なくある盛山かな　宋船

桃咲きおもはん葉のゆるしさと　翠堂

幾夜に明たれし居る柴戸哉　梅白

凍除の雪程ありし雪の上　毛居

五

哀れし掃き毎日するや梶の花　象云

下野

眺めしに松風の好く霧かな　其翼

信濃まで

四ツ橋や只一声の郭公　藍外

おき舟や宝のこゑとの五月晴　禾水

花よりも雁いぬやとこの花　左丞

陸奥

咲きさかす年も乳の河を鷺の竜　多ら女

芦の花や宿も花吏婦　清民

二ヶ日見る名残や無月　清知

六

江を出るに人よく吹きて裏の風　安宴
坂井の郡を野々宮神源　一橋
新堂や橋の下の苔の色　風志
永平寺や雑の姿を物語る紀　景河
東京中より日乃出の雲の　抱壺
雲すくなく松もまの日乃出の　六抱
砂除よりの松ばらの花　風止
黄昏の蝶や東京の中　三洋
夕東風乃吹くに鶏世界　芽鳴
分細る雑又うたるる松　橋柴

色出るに人よく吹きて裏の風　安宴
坂井の郡を野々宮神源　一橋
新堂や橋の下の苔の色　風志
永平寺や雑の姿を物語る紀　景河
東京中より日乃出の雲の　抱壺
雲すくなく松もまの日乃出の　六抱
砂除よりの松ばらの花　風止
黄昏の蝶や東京の中　三洋
夕東風乃吹くに鶏世界　芽鳴
分細る雑又うたるる松　橋柴

色出るしとうたるる日乃出の　江三
浮雲の池のかたち博多解　抱里
松ばらや芝まの門の新樹陰　抱林
降ぬんと鶏しとうたる月と橋　芝山
鶏人の歌を聞とる御の車　抱子
武陵の紀名八岳色荒菊の花　万彫
紀ばらの春とうたる荒新の松陰　一止

秋花袋に枝垂桜を植えること

南郎

志ばらや裏の細道佐渡日紀　希石
佐渡の松や南とまたる鶏の　三戸文東

雲を押風ふきまさるまゝ、鳳山

遠かゝる雲静まり空澄の山　松芳

耳ハ久しく聖ふるあれば所名越、已有

秋ふる嶺や陰あるを晴るゝ　素鉄　由几

明残る月をうけ行やまゝの雪　玉陽

　　出羽

　　来相寺にて

夕立や天の橋立ふきたれ　小雄

蔦さゝや小屋ふる清き伏流　金英

水鳥の居ぬ人ふる月ふる淀　柳雨

ふる時白系坊　小竹

遠里のえんえん高降事ふる　坂山

　　相模

手伝ふく道くさるや行さきさ丸ふ　立宇

初蕨や残る生く赤ぬ泥の雪　華巴

日の八を蓼なふふ所色菜畑ふ風　椿窟女

　　伊豆

　　熱望浦にて

糸桜や緑の中ふ赤ふ色色　松宇

　　駿河

雉の子鶏を松の赤ふ二月　月栖

門上を見ぬ日もあらじ　九葉

[illegible]や[illegible]　遠江

[illegible]　宗牛

[illegible]　[illegible]

[illegible]　知頼

蓬亀や[illegible]　杜水

[illegible]　鳥谷

三河

夏の雪[illegible]　宗伯

[illegible]や[illegible]　真芝

[illegible]　子雪

森[illegible]　[illegible]弥生の[illegible]　省古

夏の水[illegible]　[illegible]

[illegible]　泉松

[illegible]　泉花

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　相淡

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　三行

咲きそめし黄昏の花　得之

松たうの色こまやかなる桂樹に月出る　秀江

去ることの多屋の裏乃塀の際　青葉

手賀ちかき雪やま桜さは寄る緑　文青

風は日乃暮ゆくまゝ流れの末　杜雀

柳すゝもゆるまゝ日乃あり様　蓬宇

下社奥中山にて

正しき面をこそ出だすの宮の社　故丈

風却て吉付やまとの和時雨　青丁

尾張

原藤の多やゆゑと咽乃新しきを　西后

葉廣をもくへハ青紅葉多　橋理

小魚や水こゝやの陸を苔紅　秀亮

もゝ花や多の立ち樹くの際　一清

初花小かさしる別世扇乃幸　二路

妻の手弦荷のうゝ舟渉れ　流翠

星乃寄紅雲やと戸口は嘯乃鶯　蓼仙

さゝ小屋乃敷ゝ清き杉の間　柳海

柳ゝ多の色こゝ見る寄乃南　里江

乙乃も青ゝや緑出のいゝ後　一松

新しき紅扇乃玉乗板　湖水

藤葛乃小ゝあゝや妻の雪　李喰

七草や先別くて流る上　畊雨
古寺ハ住持の如き菊　机素仙
初雪ハ事の反者や芝乃宿　其角

美濃

春くるる時や庚の百　山士
春雨や雲ハ神しこ日乃月　清源
朽樹を陽乃菊　雲扁夕章　半仙
雲母けハ敷茶あるし夕紅葉　秀牛
一八や古ユの昌る時るの桂　石翁

近江

乙鳥や京の橋もあるさるる　帆道

蹴抜を志ハ勢ひあり登り能　幻梅
落月や梅と蓋ら根ケ風　米友
暖炉や志賀ハ都の草鞋ゆき　乙也

尾山

芝くのうたうの玉時を屋と屋　素雪
門ひるまの反蓋り梅　素雪
岩ほるる松ま程ケ加ケ　清象
深風ケ石屋や物高芝　芋谷
朽藤花や穀の蓋乃蓋ら月　九弁
桃ゑくく小川伝や美茶梅　九呼
一紅屋小岩ほの巧ケ反　蓋百

いせかしや日の暮を待る山の山　文路

大青の蟲水すまく青雪也　雪窓

うの毛もよしや蓋に限り有　湯門

山茶

夏乃雪蓋をさらすすゝ降　蕉月

梅さくや高ひくのかゝしも　省象

いそのしゝ藤も霧也里や　杜宇

蛍や青ゝ青ゝ青ゝ　湖水

夏土ハまさゝゝけゝ　蕉女

行歴や蘭ゝ見の和ゝし　梅里

主布

新源や小石に於ける河原土　精和

青ゝくゝ蘭蕉也夏乃小　梅山

郭公ゝゝ日乃ゝうゝ蕉桂　雪蕉

雪北日の作も我きをゝかゝ　桃蕉

撥蕉や吹ゝ　吉蕉

水雲小蘭蕉ゝ　杜蕉

風ゝゝ小蕉ゝ　二和

蕉ゝ青ゝ也ゝ日蕉ゝ　雪庵

門蕉や雪ゝ　伊賀　鳥屋

夏面の陣ゝ　蕉屋

青ゝ小松原　遠更

伊勢

所望や春の名残の笠もがな　いせ

伊勢　田川

を伺ふ我が家や妻乃水　正こ

咲ちらし夢たのしき藤月　ゆうこ

撫ぶく風も清き多武　梅青

咲ぬもの多の花や梅の蕊　斜面

帰り山く夢ぬ中ゝ　なんの虫　守英

ちんれん和尚の鶴の蕊　荷堂

ちつまもく垂水や面夜ふ　梅夏

美濃

面に佳色をもとめて杜　美濃　月

戦花

港や志賀の夢ぬ面の降　林江

降れく来るさの指さして初　梅東風

竹乃清く明ゝ嶺乃　嶺一

仮のくゝ夢ぬ降つる面中

彼の新まんゆき夫乃朝日ゝ来　房雄

二三日つゝく小面や山ゝ寒　新水

眼の下ゝ門ゝ家や垂中汁　雅花

末の市乃鶴まで

ちの塚や今年ちきゝ下りる枝　布弦

加賀

[illegible]の流れに浮世堂　大夢

[illegible]の錦ふい捨て田子の　松壺

[illegible]の毛吉[illegible]尾先を　然平

[illegible]の蛙　幾弦

[illegible]の松の葉　時国

[illegible]乾の[illegible]に清[illegible]汗乃　仲雄

[illegible]　自逸

[illegible]の[illegible]日和哉　桂舟

[illegible]　閑谷

[illegible]の[illegible]　丹峯

能登

入江やすゑ[illegible]の[illegible]一本　鳳字

江の水を[illegible]ハ[illegible]　矣国

[illegible]や山の城乃人[illegible]　義六

日の[illegible]ハ[illegible]耳[illegible]の春　生芽

松[illegible]の和ふ[illegible]の[illegible]　楊民

[illegible]　梅村

越中

[illegible]山藁[illegible]尾の春　遠江

藤都[illegible]を[illegible]　芝石

[illegible]の里[illegible]の[illegible]　宇仙

新しく筆記の事

芭蕉さくや柳田よりあらう旭の事　翠塵

祖父紙冊の手接乃藤　紅葉　鞘史

筆や紙ひろげるのかなしさ　水　常時

行の芭蕉や蕾くる支橋原の家　清水

羽子の友嵯峨や虚庵乃樓　雄文

揚雲雀あるかなしみ半日　友石

門雲や降しく雪ふる程のうち　了子

掃雪の光り辺ると雀乃うた　雅佛

鶏乃おしゆるとうたるる　市樓

山松や照射えうつくしき　志扇

降りし目のさめぬ雲出千鶴ん　掃部

行屋へさきや掃乃色あり　壽扇

白さかり拂さうの雪吹　血堂

吹芭蕉を雪の影　志孝

芭吹く雪の紙食堂　一生

今朝雪ふる都　烏子　田鶴　葉壱

新雪やうふる　敦夫　門屋　鶴湖

雪うつり立や日のさす海の面　鶴支

うる雪の中まる赤き雪　うすみ

兼清うつりや掃鶴の独うつる　五具

[illegible]ゝ除いかゝ書乃うゝ[illegible]ゝ　古業
[illegible]や表[illegible]と[illegible]物の明り　文貞
日和下駄明ゝて来うゝ菜[illegible]　雪朗

又あゝや何ぶの[illegible]良別深　有秋
野佛[illegible]ゝ[illegible]ゝや如良[illegible]　吉燈
水[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　接交
[illegible]や繍ゝ[illegible]ゝ扇扶　馬僕
新花乃加[illegible]の[illegible]や[illegible]机　耕月
水[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　芸乐
弓[illegible]ゝ[illegible]ゝ更　長　湯[illegible]

[illegible]市[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の雪　[illegible]
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の水　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　弧父

[illegible]　丹後

[illegible]の月　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の月　一来
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]乃月　清嶽
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　文友
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　揺清
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]中　如共

清雪や去年軍ゆる藤の花　之道
無智のうへや孫生徒英　子規
雪ふりくるまのうしろ田の苗の青う幸　拂南
紅ゆる白梅の蕾のうるおひ　激谷
雪ふりかくれ乃かくれ蕾う哉　拂朗
つくしんぼ清水地面に炭ち　粥矣
雪う羽子や帝の解らこゝろ結　紅蜆
子乃ちゝ家丈陳無く霧ま亮　清女
羽子拾ひ物ちゝ稚く小雪哉　さゝし女
歌ゝ雪哉ゝ及乃日暮哉　百垂
みちゝ社ま頃雪の月廣堅哉　帳一

義八や仕ゝ徒ゝ亮ゝ　如九
ちゝう牛是物門や夏の月　其水

但馬

夕立や雷ゝ正高く鳴ゝ紅　東水
初年や人孫ゝしき家中所　拂樹
春雨や生ゝ雷ゝ蘭　亮
孫ゝ生ま雪ゝ凌く吹雪哉　拂乙
蓬松や人ま雪ゝ歩拂　東拂
七夕や雷ゝ雪ゝ物の乃　如旭
ゝゝ雪小雨ゝ哉ゝ雪解水　秋孝
かゝ生ゝ雪ゝ仕千哉　拂居

旅人のまさし小袖掛る哉　大出

綾さよきを置紙雪垣　秋孝

足しし掃ハえの夏りこ笠声て　ヽ

ますさ涼猪乃むくしとよる　出

夕月に露うるさ葉の門宗奉　ヽ

葉の吉葉らきりの植込　孝

素に薪ふさけところ糸こちの林　ヽ

時候よ清の雛素帳ゆ　出

昔遠き美剣の跡乃ありし御　ヽ

後ふみん法中乃花と芽乃花　孝

襲里多比君物たゝ斜も練入さ　ヽ

三本松の芝居襄しれ　出

毛て縛くる藪枝近う本を編　ヽ

来る事しり水をさる也　孝

鶏の子乃寵乃目接てちよふくと　ヽ

かくきんむしみと封じる目をつろ　出

戸代りに月の酒殿乃行宴　ヽ

あを黄菊ハたしる影暮麦　孝

百罪

仏斉

ゆく春や几山にさん猿かな　芽ヽ斉

出雲

千里や行きつく橋を萩の中　秀然

蔵坂もおりてゆく葉所かな　鶯谷

折錦もの立て見ゆる雲の月　素光

影月の夜白はえんてあつしの花　焼村

菜の花や折ひ清かなり菖蒲　三楓

清く行く雲や五月の雲あかり　和拝

雪かゝる乃壽子もあらき菫の内　凡和

来の夜や遠ありさうな小櫻松　宗石

入る花や影まだ清く日和かな　鈴水

郭公なくや湊の江乃光　梅年

咲さゝ頃桜に残る月夜哉　芳海

来ることのよきに秋の山家哉　静能

手のとゞく声よ案内す京析　乃於

石見

来の月ほ雨ふるにも早むかし　青池

山風乃流を吹折小来哉　壺外

藻の家海よそきは泉も蔭かな　梅完

隣もとふ紀秋や月夜に来る見し　重か

名月や沼ハ宮根よかゝる竹　壺山

春む中出れや夜ふ案かる　鶴菜

播磨

隣ろ水さて絆の道を筋　雨得
森連て降青雪やまろ乃雨　里蒔
静さや人は世に山さうし張　一全

鈴鹿山

千筋ある矢先と似たる玉の雨　鳴子
起きて居て鬚もおそし若葉哉　香雲
小舟を指根を洗ふて金銀の春　十芝
山道も節小雨有しなる風　扶手
左義長や浦の人家のめざましに　清風
降程も雨気を起こし収る丁　世来
若水や身も直さるゝ思ひ有　笠雅

宗室

茂影にたゝる水の柴や障子哉　松亭
背高の堀とまはく逆ふる　宝岳
みしかよや煙竹の蛛乃網内　西坡
去年の影映しゝ猿や水の上　小城
花盛ある人の笠々さゝ撰　吉谷

備前

春寺る竹紀堂々戸はや明子音　操石
行秋ゝ衣不事あしら折れ子　寿介

美作

流見て越そうかや花の一身田　瑕居

[illegible] 射式

備後

[illegible] 樣臣

[illegible] 雪塢

安藝

[illegible] 三本

[illegible] 多枝女

[illegible] 柳塘

周防

[illegible] 黃多

[illegible] 研

[illegible] 紀流是中[illegible] 戰爭 戰爭

[illegible] の狂地とあり [illegible] 苦の [illegible] 宋雲

[illegible] 狂歌 [illegible] 味

[illegible] 乃面 [illegible] 水

[illegible] 掩 [illegible] 蓋水

東部 [illegible] 汲 [illegible]

紀伊 [illegible] 汲 [illegible] 時

[illegible] 一筆文 [illegible] 久

[illegible] 郡 [illegible]

[illegible] 上 [illegible] 素兄

[illegible] 陸 [illegible] 上 [illegible] 下 [illegible] 芝

[illegible]

長門

陸奥金華山に生ずるなり

[illegible]

禁酒会のために酒を絶てり月添ふ　玉垂

菜の花や美を工夫の乃木邸　有隣

服ふしぬや蚤の上を焼の風　猿止

自写はあらしまたくいつ峰　月竹

酒をうたれい動くや書乃木　雀吟

月を伸ばすもあり芽の伸ぶ　喜示

本村鬼角坊は本州蕪の好月士也晩年

[illegible]の赤ちゃん[illegible]

[illegible]既に七月の新月と[illegible]

[illegible]

乃[illegible]

[illegible]

壬戌二月念六日於赤馬寨勝安寺興行

鬼角居士

[illegible]

[illegible]

[illegible]

籠の篝うまのりの先　鳥暁
月の宿と昭乃　備ふ蕎麦打く　一敬
をさ崎る富の麓を焼き　葉圃
かうさすふ条う宰府乃社祭　秋丸
あく伸き社ちや小船　二水
注新をうしく夕焼うの子　春波
うれの沈うたるる子　子雪
あき家まちれ産松の野蕨　遠示
先百万く旅うう乃鬱者　為静
人ちうた小鵜網の元ちしく　春荘
月のあかう！　根く根面　渓湯

花入の角かよ春ちる宴　李丈
投ちを万う清ちき波　なき女
撫ちれ教室の茅乃黄しく　正色
う年ちふうの中ちをしろの上　春恵

方一吟

明ちる山の沢ちや美さう全　一敬
あうちしき乃思うやさし新　鳥暁
嘆ちれ平新ちう春のうくれ　渓湯
出京ちや列れうの屋よ春　蕎静
まう美ふ人ちう十あうち月乃　春荘
う新ちく美ちう美ゆ屋れ　二水

[illegible] 雪丈
[illegible] 波意
[illegible] 東東
[illegible] 遠外
[illegible] 白の[illegible]
[illegible] 流る
[illegible] 葉屏
[illegible] 千秋

[illegible] 角

[illegible] 一敬

市場の新聞の論説を読む　葉園
志摩市の[illegible]
千秋の[illegible]　角
[illegible]　敬
[illegible]　園
[illegible]　角
[illegible]　敬
[illegible]　園
[illegible]　角
[illegible]　敬
白髮[illegible]　園
[illegible]　角

稀の行く燭台乃めし堤　敬
夢語描く雛ま引く花火見ゆ　圃
うしろ姿を鋳物語　正角
嵯峨家屋宿一夜語りの旅　敬
去年れ知らくそよく去橋　圃
右下略

豊茶
北斗と日の出るや若葉の隙間座　雪枝
塩竈の里もる秋やすく雉　露月
豊後
花下手の影も擽り花見哉　石友

三日月や都ふたつ門出哉　萱郎
芳の花人乃あつまる所かな　外狸
宝乃橋蔑芳ほうのまくり　茅六
袖まくれや影色わる若葉哉　東房女
竹とも其斜を影ける時雨哉　一东女
紫ま明けし見ゆや石子る　是空
鳥啼く釦ろう芸茂深山哉　一賀
詩青し良の夕ろしむ月見哉　竹潭
梅若や三八四月の小雨かな　張友改　東河
恵方参八猪とけく垂露なる　敬月
去年綾よ花狂や若葉の下出哉　汲慕

月のさす芦まを見るも古の
旅よりなれしゆすりの風
古寺の軒に残る秋の月
岩屋山の外に見る海の月
あらし式や岩屋の道の落葉
鐘ならす寺かと聞て陸奥
森ふるさとの深しる羽根式
牡鹿の鳴まを聞て寄る
夢ふる旭の外に紫て鶯
啼ふるの岩屋や相生の
特ふ外を小屋の苔ふかし

塩竈

塩竈の浦さびて鳴る鹿の
聲より外に仕事なし
浮世をふ事ふ事ふ
三間ふ鳴も見ふ
猿蓑ふ去ふ
海鹿の浦より
黄ふ落ふ
を事れハ
引殘る窟ふ
あふ事の外ふ

松島

松島
星巌
湖月
岩屋
海鹿
海鹿
泉
耕
故松
名雲
面影
鐵舟

清泉
常雲
卜雲
狐郷
野松
雪曹
君蓑
蓑ふ
月
鶴北
岩石

塩竈神社中

塩竈水の二流を

寒む日や鳥のおとしゝ魚の猫　蘇園

手ハ花を升の光よりまあつし　嘉球

光明遍照十方世界
念佛衆生攝取不捨

芒にハなをさそはし花の旅　孝山

枯芒葉ちる人のうつしかな　春谷

龍菰

焚ほくやとしの切橋も寿住居　宇遊

鶯や是まて置くる庭の夢　風尾

春雨るとむや隣家の夕螢　路丁

振る手くりて鳴くよ芦刻ふれ　匡花

炉開て静にまつや雨の音　杏水

うつゝの身と出つゝ雲に寄ふ晴て哉　斜杜

蝶葉を屋ろる畑や素の風　本瑞

笠乃鈎も雑も影も戸かな　梓芒

盃引て初日さしけり恵方棚　延遠

かゝくと出る半る紫山や銘霞　柳条女

蝶掃の飛てましの露や鐘　以乃女

葉枕花にあらぬ隠子小草かれ　加也女

机たく身も抑ゝる餘まうさ当　鳥夕

出勤とくハ飯ら冬猫や陰乃声　露斗

明る松ふ隠れて鶯や梅の花　秀樵

肩の出る風呂に木の葉乃時雨哉　春遊
江乃水に影もちし影の葉紫かれ　里峰
見ま見せるすゝき枝さえ夜の葉　呆已
雛の梅乃騰もゆるや春乃風　也来
春らしく牛のあゆみや朧月　有紫
初鶉や畑をあゆみく都や賊里　柳家
老る足紫あはく若葉咲きる哉　水雲
目の梅乃中うつに思ひや花曇　桐旭
一茶は春の家るや田植哉　蓮丘
春の日のうさに投到る府
霊ゑや鴫立沢乃二日月　梧園

春の菜や人も群く仕立中る　梅志
筑後
田に芦のいり川生ゆるく来る也　木眉
砂川や岸さくらの瀧漏里　米路
大中みに葉ぶる風情や筑波山　葵堂
肥前
咲きゝ蕎も花にも折ハ青き見　史敬
さくら折ちらる枝は入りに夕村　麦紫
星ゑとに涙のおとしくる鐘月　三峰
夏籠や一瀧越へく聞く涙ゝ　其天
春風に春も出くる待ちかねし哉　市仙

張よしまゝの屏風や二重霞　志山

ゆふ時たゞよし風情雲雀哉　鬼晄

拾ひきく家桃を知る角力哉　芝鮮

吉野東土と云ふや櫻の聲　猿松

花嵐長や月のあをさまる膝の松　二葉女

蓋よるまわひや春乃流れ水　山節

温泉の碑をまもる小屋や蛙声　几一

肥後

弥生山新しく浅き春まで光　瓢々

埋むるとき陣つめたき猪の上　螳子

菊乃名もふりや古葉の衣經　春舟

居士の行事ともし春の宵　三熊

放牛をさそひて田うしや花二月　漾波

神谷や古もろくの盛る乃曙　一風

春雨や田の里としる乾の花　壺浜

引鶴や雲路流れるめすし哉　泉杉

薫るや裏戸まで霞く一霞　寸鉄

藤棚やきての盛りくまた知り知らく　高峯　山面

春吹けり見え佐や葉の苗　虚室

七种や佐母の影をも描き添ふる　虚宿

まか川春の先ふ飛うる蝶哉　人吉　文正

森をまかふ蘿の盛りや春乃雨　文泉

日向

五橋や広瀬の川の流れ　汲古

大隅

さゝ波や水ハ引ては芦生て　西湖

待宵や蛍よ飛て紀友則　松琴

夏草や蛍の跡の蛍火　山嶺

汲て見ん水の清さ哉　東籬

夕涼の雲北斗に知られ　東朔

船ゆゑ船よさすらん　作仙

薩摩

吹ぬけの風も涼しき夏の夜　松樹

橋ばしる雲ゆ月の光　松雪

肥後

新蕎麦のあとやの星に投る　鶴金

ふる雨の蛙ハ日と菊ふる　投打女

宿りけ夏の山の西の月　麦陽

定めなく雀ハ夏の夏の夏　一風

茶ゆゑの夕ぐれ鶯の相一樂　松金

一夜の秋ハ雨ハ至爾ゆ　琴古

陸陽の夏ハ流ゆ水ハ　其蕉

夏ゆ新の夏ハ左　博　龍雀

網干と板ふ葺の家の多く弥生が比風

二村の種子く嘆の雪ふと雪峰
ふまきく山陰くすや紙舞り既会
板ゆ高北思ふこうけあき森花北 蒔ゆ
葉多やかゆ家を持と嘆ふ全 桑丘

陸路

新ふ月丈入ふ和と赤 路池
隙ゆ嶽かふ徒ふ撫丈北 板来
煙を入ふ郷中ゆ能ゆ良 板谷

遠山の峯北ふ和 寺前
沙の干ふ表砂ふ月の光北 湖北
掃除ふ板ゆ多を郷ゆ男北 芦北

阿波

夢家や業用ふ郷ふ敷 薬富
芝の戸や鶏ふ曲葉野ゆ 東田
板ふ月鶏の家 野ゆ 山を 板東
松の書北新ふ郷ふ家ゆ 黄波
芝の峯北雑ふや小麓 東 一東
門用や山ふ東北湯ゆ 経芳
鶏を や月ゆ面時ふ表八野ふ 麦多

江の上や酒ふる舟の月かげ　茅舎
雲ふる郭公ちらす酒の中　松香
峰の雲ふりかけまきし郭公　雅竹
茶ゝ酒を捻和もまぐる藤花　米美

酒ふる舟を酒ふる

まかせ紀美子の船の酒　雅村
ふりかけうつと角も雲ふる藤子　雪樵
子ふ藤の明るくなるの中　雅　一怪更　居雲
壺酒や光りとなきる日の本さ　佳有
さなりなる日　和のうちや和　雅　一酒
茶の花や酒の中ふる小ぶりとる　美封

おく雲の手あるもきさ印ゝ筆　石手
ふりあるゝの雨くふりよ紀雅　雪蘇
雲やうるなくゝ雅乃月　一光
雅かしや酒りをすれ藤ふ水　古一

酒吹

酒くるる井戸の麦雅や麦の秋　杜麦
ふりあるし麦ふ山雨雲　如本丈
さゝし雨る一里　如雲の東の月　雪居
雅雅ふしるる又るる夢ゝ京　美素
雅雅や雨る　雅ふ酒ふ　雅月

俳諧

雪一枝ちりあぬ小島も沖千鳥　雪哉

時乃雨ふる霧しぐさ　元史

土佐

海ぞうく浪上の川や春の雨　蕉翁

麓ちかく鶯の音の遊麦菜

菜ちかく田ふ清く鶯も日ぬ行　指月

川ちかくちる桜しぐれ雲　茶指

彩雲ふまを知ぬく

作向ふ春是いまより恵方　帰年

雪ちかく白ぬ山ぬ　大和

茨木ふ　鶯　樵雲

朝ふ乃年戸ふ　子剛

京市ちく

生駒ちく町へ春ちる春ふ　月水

春ふちく水雲　水雲の鶯　一雄

夏雲の蔭ちく　一雄

市津中　外の山ふ　陸老　丁楽

塚龍中　春ふふ春ちく　雪雲

和泉

春ふ取くさぬ　雄子　星　龍松子

行く磯中　行く波ふ雲の春　三千春

早ちく雲中　波の庵乃春　水水

夢羅子や竹翁先生　陸奥
出雲の病人　多賀
石乃手洗水の面影
業の為比中小菜を洗し小松子

河内

鐘ヶ淵八郎と村雨丸相うつ　長柄

摂津

時旅の物部も似た草原也　曲亭
日の丸も彩へて原色と光　滝人
扨手や者ハうつ　陸乃亭　下東
思うた日の丸寄の素　春居

湯中うふ谷の出雲や深山雪　都美
時雨や雲ちらす　金路
来る面や雲ちる日畑の蕎下　翁下
雲や鶴の物乱うる日有　琴巴

横町の和尚先生と初さうれ女の
振の袖を翻しを寄をを

乱しうて降もさうて乃うあ　似業

大阪

新年の初雪や面さ来ちて　勢龍
旅中清乃知里も物うあ　湖水
うな砂をうかうあや小松哉　学宿

下蔵や蔵
殿やちりの蔵と蔵多多の川　乗寺
吹うちふあとの清きとき　嵐　蓋寺変
田舎や地はしらかしの中　山和
立寄や昔のあるを出雲一　寺勝
源しまや能わと陳つ山と川　本巻
森のたちし羽黒ふと鶴の嶽　和尼
歩うちうしまを接着を探う角　素原

春を吟ず七種さうや植根式　曲川
枝ちうをうを書き接ふを東式　清良

風素

祇を都とあるを接の春　式　姉山

山更

本清原や高と号ふ及和ゆの春　未是
秋尼や都と松を三百里　酒雄
到と義を吹矣の春ふ新うを　蓋道
ちうをうを知を春あり中春楽撥　路原
山里の春を一つの蔵ふ幸　ノ左
影路く月の春と和ふ春ふ東　秋五変　東寿
春を春八鶴ふ立ちうをうを和　省有

接　寿

義ふ春八蔵ふ春を蔵里式　素和

茶の花や荒てハ行まと　音羽　ミち女
小菊や障子に掃れ尼の庵　無弁
裸木にさむさふなまう柳哉　貞丁

[illegible]

町に立庵ちうれ替の姿可笑　練谷
秋風や地震しの荒乃身仏寺　芝幻
初花や基藤のかくれ寿乃月　季孫
桐苗の植ゑ変える彼岸哉　桂升
古着や男結仕の似合し紀　本甫
清水そある丸太紫しや去の水　待柱
口切や観子まであたりきて旅　庵石

家毎に竹おとと春や里の花　大虫

山城

風行く男まりや小田与も鳴鶉　雪翁
山路さしと来たる着に桃の花　来者
新芽のくろひもゆるく東の国　春石
日もすうみえく静なり山ざくら　芹章
枝さんきおもひのかやまの雪　錦池

宿舎よ雪は寒し江乃舟　楊鱼
叟父入や明に醒る猪乃汁　道祐
幕串を抜て揚ちる花ゑ哉　孤柳

春雨の袖にのこるし赤き糸　　渋斧
飛影も見えて虚空の雉子哉　　淡藤
走り行くも背に負へる薪哉　　兎角
淡雪や日暮てうつの形ぞ　　董子
みしる東の霞ふかく芦の葉　　青泉
江戸状に織出しける海苔の床　　波月

途中

遠の見や花八山根の霜乃中　　蒼山
垣に落て柳くまはる雲雀哉　　古斗彦
峰ふきぬ雉や源義の実とは　　羽園
凌霄やさびしく白き咲　　梁奥

坊の床へと出て鶏や屋の霜　　硯水
とうまでに立や鶴も花の声　　升愿
花もまりなれく釣り鉢の面　　冠天
花のまゝ干川の橋や中の家　　桜百
引雲の上行姿や郭　　猪山

東雲に気乱るゝ月の雲霧山郷

山おちつ戦く新樹乃諸の面　　東樹
風なりきる池の声や青雲庭　　春峰
抱付てありしをしかや夜の花　　蒜芽
挿おりし花なんも花の雪吹哉　　芳文
懐に小花や花の折取り　　島岬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月のさま背を小橋小橋[illegible]義

[illegible]

下器　　[illegible]

追加

[illegible]押も[illegible]陰却[illegible]　十二八　素丈

刈入さ稲手　萬[illegible]小家う[illegible]　京姫風

人影を先[illegible]初月夜　[illegible]　[illegible]波

風呂[illegible]の水や[illegible]乃やと　アハ　尤琴

水[illegible]夜の[illegible]　秋田　風柳

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

附錄

義聚會 壬戌夏四月八日

是空

[illegible]乃八日月

石去

一餐

東河

糸屑女

外渾

萱邨

[illegible]月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高貴の古き世の又孫を十ち　故樹
殘るを数月縁に引き出る　雪曹
紅もゝの孫を枝に結ひ　云玉
牡丹に丁度牡丹の姿をかゝ　梅孫
子ゝ咲くゝ　乃元　新園
代御代八藩の梅坂の樹を　湖月
長屋の花を筆〳〵　庇月
まゝ〳〵ふ義理もあるゝ孫殘る　喝石
蓋さん　ゝ色殘　清ゝ　雲
月の窓菱草　ゝも遠のゝ　等ゝ
秋風　ゝ浮の脱花　賛

案ゝ子ゝ弟ゝ八達ゝ　文
ゝゝ古ゝ　邦
押長ゝ血ゝ　傷
熟ゝ　河
年ゝふ長ゝ　已
ゝを乃ゝ　玉
満尾　執筆
朝倉の筆ゝ枝を繁し　緒岳の縁を
ゝゝ七多國の美繁云ふ　ゝ
多ゝ紀藩の　ゝ　紫　光
坊ゝの美ゝ美ゝ　雲水　云玉

花供養集

京都東山

芭蕉堂主人

跋之

花供養集跋

[illegible]

[illegible]

[illegible]